

新6者懇  
1年ぶりに開催

# 実務実習費のバラツキに懸念

薬学教育6年制に伴う薬剤師養成のあり方について共通認識を深める「新薬剤師養成問題懇談会」（新6者懇）が7月16日、約1年ぶりに開催された。懇談会では、厚生労働省や文部科学省など6団体が現在までの取り組みを報告した後、来年度からスタートする長期実務実習の実

施体制や薬剤師需給などについて議論。6年制教育で最も重要とされる実務実習を円滑に進めるため、▽実習費用のバラツキ▽大学と実習施設との連携——などについて、関係者間で“さらなる協力体制の構築”を進めていくこととなった。



来年度からスタートする長期実務実習の実施体制や薬剤師需給などについて議論を行った

## 一層の協力体制構築を確認

懇談会は、▽国公立大学薬学部長会議▽日本私立薬科大学協会▽日本病院薬剤師会（日病薬）▽日本薬剤師会（日薬）▽文科省高等教育局医学教育課▽厚労省医薬食品局総務課——で構成され、オブザーバーとして、▽薬学教育協議会▽日本薬剤師研修センター▽日本薬学会薬学教育改革大学人会議——が参加している。

実務実習についての意見交換では、日本私立薬科大学協会の高柳元明会長が、5月に同協会がまとめた「長期実務実習に必要な施設の確保等に係る協議状況」調査の結果を示し、国公立大学病院の実習費用が全体として高い傾向にあることを指摘し、「他の病院に近いような金額の設定を考えていただきたい」と、足並みを揃えることを求めた。

各団体はまだ主張崩さず  
実務家教員の不足も不安視

実習費をめぐるっては、薬学教育協議会などが2010年から12年までの暫定措置として、病院、薬局ともに各11週間で学生1人当たり27万円を標準額としているのに対し、日病薬は38万円、国立大学病院は47万5000円が妥当と主張するなど、バラツキがある。

その上で高柳会長は、「費用が高くて交渉できず、あきらめている大学がかなりある」と指摘し、「27万円で実習を受けられる学生がいる一方で47万円の学生がいると、不公平感が出る」と述べた。

また、同協会の調査結果から、多くの大学病院薬剤部で、日病薬が主張する38万円が支持されており、影響力が大きいことも紹介した。

日病薬の堀内龍也会長は、「見学実習ではなく、きちんとした指導をすれば、それなりに人件費がかかる。従って、27万円では安く、38万円を主張している」と説明し「その金額を支持する病院が多いのは当たり前のこと」との考えを示した。

また、堀内会長は実務実習の実施体制についても言及。現場経験のある実務家教員の数が十分でない状況で、「実際に教員が病院に

来て、一緒に指導するということがどれだけ可能なのか」と懸念を示し、「実現できればいいが、多くの病院薬剤師は疑問視している」と述べた。

薬学教育協議会の望月正隆理事長は、日薬、日病薬も参加している日本薬剤師研修センターの実務実習指導薬剤師養成研修検討委員会などに、「現場の薬剤師が意見を提出していけば、そうした不安は解決されていくと思う」とした。

## 一般社会にポスターで周知へ

各団体の取り組み状況や意見交換などを踏まえ、文部科学省高等教育局医学教育課の吉田博之薬学教育専門官は、実務実習の実施施設と大学の連携について、「まちまちの状況。非常によく進んでいるところもあれば、細かいことまで詰め切れていないケースも見られる」とし、今後も大学教員と現場で指導する薬剤師が、協力体制の強化に努めることを求めた。

また、日薬は、長期実務実習のスタートが近づく中、国民や学校、医療機関等への周知が必要とし、その手段としてポスターを用いることを提案した。

当時の厚労省医薬食品局の川尻良夫総務課長も、「国民が知らずに学生が実習していたというケースは避けたい」と同調し、ポスターを用いた具体的な周知内容は、日薬が検討

することになった。薬剤師の需給についての意見交換では、委員から「欧米並みの医薬分業を進めていくのであれば、薬剤師が余るということはない」などの意見が出た一方で、国家試験の合格者数が1万人を超える状況になったことについて、「今後もさらに増えることを考えると、そんなに薬剤師は必要ないだろう」といった意見も出た。

さらに他の委員は、職域が広いという特性を踏まえ、実際にどのような職域で薬剤師が活躍しているかなどを把握した上で、「あるべき薬剤師のバランスを考える必要がある」と主張した。

これを受け吉田専門官は、「確かに現状分析は必要。それを踏まえ、今後、議論いただきたい」と述べた。

# やさしい臨床医学テキスト

本書の概要

薬学教育6年制移行に伴い、「医療に強い薬剤師」を育てるため、2007年秋に刊行した本書は、医学の基礎知識が網羅的に解説されコンパクトに編集してあることから、薬学生の他にも、薬剤師、研修医、医学生等から好評を得ている。また、内科以外の専門医、看護師、管理栄養士、臨床検査技師などの医療関係者からも参考書として活用したいと要望が寄せられている。  
2008年秋、本書の内容を見直すと共に特に薬物治療については最新の情報を掲載し、図表を多く取り入れさらに見やすく編集し、すべての医療関係者が使えるよう、書名を『やさしい臨床医学テキスト』と改めた。

### 目次

1. 病気を理解するために / 2. 病気の診断と治療 / 3. 中枢神経系疾患 / 4. 心臓・血管系疾患 / 5. 呼吸器疾患 / 6. 消化器疾患 / 7. 腎・泌尿器・生殖器疾患 / 8. 血液・造血器疾患 / 9. 内分泌疾患 / 10. 代謝疾患 / 11. 骨・関節疾患 / 12. 自己免疫・アレルギー疾患 / 13. 産科・婦人科疾患 / 14. 精神疾患 / 15. 眼疾患 / 16. 耳鼻咽喉疾患 / 17. 皮膚疾患 / 18. 感染症

編集委員

大野 勲、柴崎 敏昭、平井 みどり、星 恵子、三木 知博、山下 直美

●B5判 502頁  
定価 4,620円(税込)

